

## 日吉台地下壕保存の会

## 会 報

## 第40号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費) 一口千円で、一口以上

郵便振込口座番号00250-2-74921

(加入者名)日吉台地下壕保存の会

1996年10月

賛同者各位

賛同団体各位

第4回横浜川崎平和のための戦争展96

実行委員会

代表 寺田貞治 渡辺賢二 新井揆博

「第4回横浜川崎平和のための戦争展96」について

～ご報告とお礼～

柿の実が色づき、朝夕の涼しさに、秋まっただ中を感じさせられる今日この頃、皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

標記の戦争展(9月21日～23日)開催中は、思いがけなく台風にみまわれ、足元の悪い日もございましたが、NHKニュースや新聞報道もあり、大勢のご来場をいただき、成功裡に終えることができました。これもひとえにご賛同くださいました皆様方のお力添えの賜物と心より厚くお礼申し上げます。

「日吉台地下壕」「蟹ヶ谷地下壕」「登戸研究所」共に過去の戦争の事実を伝えるための大切な戦争遺跡として「是非保存を!!」との願いで、これからも活動を進めてまいりたいと思います。これからもどうぞご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

本号最終ページに会計報告をさせていただきます。

## 目 次

## ページ

「第4回横浜川崎平和の  
ための戦争展96」について  
～ご報告とお礼～

1

小さな接点を

大切に学ば

2

聞き取り調査は新鮮だった

音声・映像記録を残したい

2

住民に聞き取り調査

3

平和のための戦争展

第4回アンケート感想文集 4～5

連載日吉台地下壕

当時の関係者の思い出話 17 6

幹事会報告・運営委員会報告 7～8

横浜川崎平和のための戦争展96

会計報告

8

## 小さな接点を大切にしておぼ

高校生

都 倉 武 之

僕が日吉台地下壕保存の会に参加した理由は一つ、歴史的な好奇心です。それは今も変わりませんが、活動とともにそれに加わったのは地下壕を「残しておくべきだ」という気持ちが強いです。

戦前・戦中の情勢と関係のあるモノは、全くといって言いほどこれいさっぱり無くなっています。これからの時代はいくらでも新しい技術が開発され、建築なども良くなっているでしょうから、ひとたび手が加えられれば、元の姿にもどすことは不可能です。今残されている数少ない建造物などを意識的に「残そう」としない限り、どんどん時代の流れにのまれていってしまうと思います。

日吉台地下壕のことで考えてみると、僕の通っている慶応高校にも、地下壕に入ってみたいという人が結構います。僕みたいな物好きがほかにもいて、何かの機会に地下壕を見学して、当時の歴史背景などを調べるきっかけになるかもしれません。

この地下壕から学べる事は、縄文時代や平安時代の遺跡から学ぶ事とは訳が違います。「現在」とすぐに接している「過去」をとどめている貴重な遺跡なのです。そこに余計に大きな保存の意味があると思います。最近では、過去の事に全然無関心の若者が多いのも事実です。それは「歴史」を含め勉強が、自分を評価する媒体でしかなくなっているからだとい

思います。こういう中で、どうやって若者をひきつけるかが、僕達への課題だと思っています。

僕と日吉の接点は、ここにある高校に通っているという

聞き取り調査は新鮮だった

立 吉 声 ・ 映像記録を残したい

高校生

大 野 浩

日吉の地下壕には数回入り、見たものが未だに上手く結び付いていないのだ。そして、戦後五十年しか経っていないにも関わらず、自分からはおよそ遠い、太古の遺物を見ている気がしてしまったりもする。

知識を得る方法が紙であったり、口からの場合でも直接体験したその人ではなく、他の人を介した形であったりすることが多いということがその原因の一つであるように思

えてくる。

夏休み期間中にほんの数度ではあったが、聞き取り調査に参加した。この時感じた話の新鮮さは他では得られない貴重なものであった。よく分からぬ部分があったし、イメージがすぐに浮かんできた訳でもないが、現実性を深々と認識させられるものであったように思うのだ。そして、このような認識を繰り返すことによって、自分なりのこの地下壕に対する、あるいは戦争そのものに対するイメージができてくる（全体像が見えてくる）のではないかと思っている。

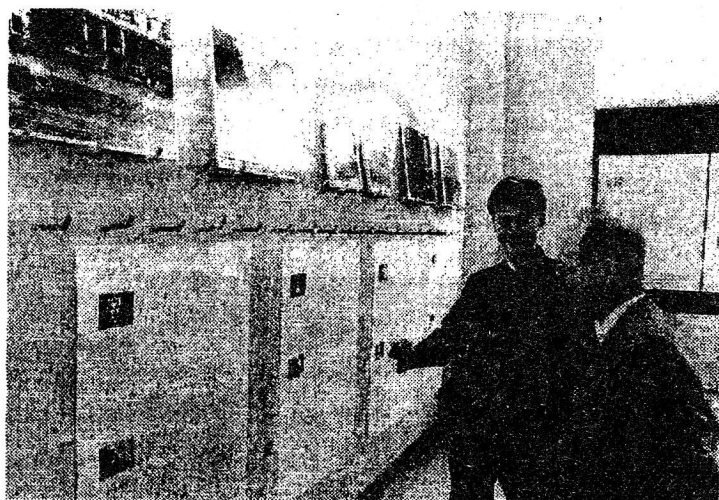
今後、この様な戦争遺跡が保存され続けるとしても、それを見るだけでは、戦争体験者が語る「二度と戦争なんてしてはいけない」という戒めが全ての人に伝わるとは思えない。

ない。遺跡保存のみならず、体験者の方々からのメッセージ、体験談をより新鮮な形で（進歩した技術で映像、音声等を記録する）保存出来たら、どんなに素晴らしいことかと  
思う。

吉の地下  
地壕

## 住民に聞き取り調査

慶応高生徒ら  
文化祭で発表  
戦争前後の様子



展示を見ながら成果に満足そうに笑顔を見せる都倉君（左）と寺田教諭  
＝横浜市港北区日吉の慶応高校

慶応高校（横浜市港北区日吉四丁目）の二年生七人が十九日から始まった文化祭「日吉祭」で、第二次大戦前後のキャンパス周辺の様子を住民らに聞き取り調査し発表している。二十日まで。

発表しているのは、「日吉の昔知ってる会」（責任者・都倉武之君）。戦争当時は連合艦隊司令部が置かれ、長い地下壕（こう）があることが知られている日吉キャンパスについて、先輩たちが発表していたのを見学。今回は自分たちも調べてみよう、この発表の

ために会をつくった。メンバーは夏休み中に周辺住民から当時の様子を聞き取り調査。「地元の人に何も伝えないまま、地下壕工事は始まった。見回りや監視がいて、壕について話をするとがめられた」壕の建設に当たっては、家屋が移動させられた。その場所に掘った土を捨てていた」などの話をまとめ、冊子をつくることも、模造紙で展示発表をした。

仲間たちと発表をまとめた都倉君は「この聞き取り調査をやってみて、さらに興味をもったものもありました。来年もぜひ調査をやってみよう」。指導をした寺田貞治教諭（地学）は「自分たちの手で調べてきた発表はよくできている」と、満足そうだった。

（神奈川県）'96.10.20

## 平和のための

## 戦争展第4回

## アンケート

## 感想心文集

◆主にVTRについてですが、今さらながら戦前の教育には身ぶるいする恐ろしさを感じます。戦争による死が人間としてもっとも惨めで愚かしいことを切に思いました。

また、気づいた人々によるこうしたアクションは、とても大切なことであり、詳細をお調べになったご努力に頭を下げるとともに感謝したいと思っています。(三〇代男)

◆戦争は悪夢として過ぎ去ろうとしています。戦争体験を知らない多くの人に是非「このみじめさ」を伝えていきたいものです。

講演会にも参加しました。平和学習に必要な財産として、

特に戦争(非戦)文化財として、大切にして欲しいと思います。(六〇代男)

◆戦争中のもの(遺跡)が失われつつある現在、このような企画を行なってくださったことに、まず敬意を表します。

日吉台地下壕をみて、偉い人は安全な所から指令を出し、庶民は特攻隊となって戦死するという図式が、今でも反省されなくて残っているように思います。松代大本営も同様です。これらを通して、階級による差別、他民族への差別(当時の朝鮮人労働者に対するもの等)等の反省が、これらの遺物をみてなされなければなりません。また当時の最高指導者層は如何にバカだったかがよくわかります。それにつれても、地下壕を作ったひと、ここで一生懸命働いた人、また、犠牲になられた人

達は立派でした。(六〇代男)

◆おそろしい! せんそうが、きてほしくない! ひとがしぬのを見たくない。おじいちゃんへせんそうに行つたけど、おじいちゃんへかえつてきたけど、しんだ人はいつばいいとはなしていた。(七才女)

◆日吉台の壕を八月三十一日に見学できました。今日の展示、講演会で登戸、蟹ヶ谷のことも知りました。昔、こどもの国に戦争中の弾薬庫があるのを見ましたが、当時はまだ、よく状況が把握できませんでした。如何に戦争について教育されていなかったかと、今気付きます。戦争中、疎開経験のある私ですらこうですから、これからの若い人に平和や歴史について、具体的な教育環境を残しておくこと、それを全国的なネット・ワークとしてつなげることが大切だ

と思いました。

韓国の独立記念館のように、いつの日か、日本にも太平洋戦争(あるいは一五年戦争)記念館として、まとまるいいなと思いついたのが今日の感想の一つです。(女)

◆かにかや、登戸研究所などに行っていない人のために、ビデオテープをつくって、かしたせがいいと思う。かにかやはそこにつとめていた人がまだ生きているので、その時のお話などもビデオテープに入れてほしいと思います。

◆広島、長崎に原爆ドームとかは見に行きましたが、まだこのへんに地下壕が残っているとは知りませんでした。

市長ももっと考えて、今の子供たちのために保存すること、実行してほしいと思います。こういう展示やお話や何かをもっといろいろな所でし

てほしいと思います。また他の人をさそいたいと思います。日吉台地下壕をみてみたいです。(二〇代女)

◆登戸、日吉といった地域で、地下壕や研究所が存在したというのは、はじめて知る事実でした。地下壕造りの為に朝鮮の人々を含め、多くの一般人が犠牲になった事や、研究所で作られた兵器や毒物で、多くの人々が命を失ったことなど、重い事実をもっとよく知り、受け止めていくことが必要だと思われました。次世代にもこのような悲劇を伝えていくため、このような機会はぜひこれからも作って頂きたいと思いました。

(二〇代女)

◆三日間通いましたが、今日午後一時にきてみると若い人が何人も姿をみせていて、うれしくなりました。どうして

もこのことが大事ですね。

上原良司氏の遺書の朗読はともよかったです。「机のひき出しがあかなかつたらぐきをぬいて・・・」という箇所、どんな本が残されていたのだろうかと考えてしまう。おりしもお彼岸、かくべつに思うのは死をいそがざるをえなかつた若人たちのこと、そして労働者、農民兵士のこと。

上原氏の所感に「こんな精神状態で征つたなら、死んでも何にもならないかもしれない」とかかれ、次に故に「特別攻撃隊に選ばれた事を光栄に思つて居る」とありますが、何だか「命令されて行くのだ」というふうにもよみとれたのです。冒頭の言葉とこの箇所をぬくと非常にみえてくるものがわたしにはありました。

◆この地下壕が連合艦隊の司令部と知り、また重要な役割

を果たしたことは驚きです。

戦艦「大和」の撃沈の様子が寸前まで、ここ日吉に打電されたこと等、戦争との深いかかわりを知りました。

この地下壕を作るために朝鮮人労働者が働らかせられたことと身近な悲しみとなりました。

◆昭和三〇年鶴見より当地に引越してき、すぐ近くに地下壕の入口があり、夏は記念館の横を下つてき、壕の入口の前に立つととても涼しく気持ちよかつた。この入口も昭和五〇年頃中学生のシンナー遊びの場となりふさがれてしまった。(六〇代女)

◆地元なので両親より当時の様子なども子供の頃から聞いておりました。日吉、綱島の空襲の様子を親戚等から話してもらっていましたが、身近な場所にこれほど大きなものがあるとは知らず、地元の人

間として、良い勉強をさせて頂いたと思っております。

(三〇代女)

◆主人が海軍通信兵としてこの防空壕におり、ここで終戦を迎えました。主人が戦争中過した所ということで、とても複雑な気持ちで見せていただきました。(六〇代女)

◆意外に残っているんだなあと思ひました。五一年もたっているのに。是非保存してほしい。沖縄では海軍の司令部があつた地下壕が博物館として残されていますから、負けずに残すべきだと思います。

(三〇代女)

◆戦争はいけないとあらためて思ひました。

うさぎとたわむれる特攻隊池田少尉の写真が心にのこりました。(一〇代男)



## 連載

日吉台地下壕

当時の関係者の

思い出話 17

日吉の日々 9

元海軍省経理局にいた千葉氏に伺います。

千葉 朝夫氏の話

(ききて・寺田貞治)

昭和五年に二〇才で海軍を志願し、横須賀海軍経理学校に入った。卒業後艦隊司令部のある戦艦長門に乗り、ついで巡洋艦高尾に二年間乗った。昭和一二年香港のバイヤス湾の敵前上陸作戦に飛行機部隊の司令部にいて参加した。

昭和一七年二月に三沢航空隊に移り、第七〇五航空隊の主計課士官として二年間いた。七〇五のような番号部隊には原隊がなかった。二一〇〇人

の隊員と二五〇機の飛行機があった。一五人乗りの飛行機が五〇機でラバウルに飛立ったが、殆ど生きて帰らなかった。

昭和一九年七月一日海軍省経理局に来た。主計課士官として艦隊経費を賄っていた。当時、戦争経費は臨時軍事費で賄っていた。経理上から戦争の状況が分った。艦が沈没すると後始末をしなければならぬので、艦から帰ってきた人は必ず報告にきた。ミッドウェー海戦で大損害を受けた時も、帳簿上から分り、こんなことで米國に勝てるのかと思った。

経理局には武官と文官がいて、文官は位が高い順に奏任・判任・理事生・筆生に分れていた。男性が約一五〇人で、当時五〇才位、殆ど判任になっていた。第三課には佐官が

三人、尉官が一人いた。

経理局移転に当たっては、大倉山も候補地に上がったが、結局日吉に決り、現高校校舎の北側に入った。

私は海軍省経理局第三課の移転と共にきた。総勢二五〇〇二六〇名程であった。日吉では武官は私一人で他はみな文官であった。艦隊経費・物品会計の仕事をした。艦隊経費の報告書は郵送されてきた。経理局第二課も来た。四〇名位で共済・年金関係の仕事をしていた。最初男子が経理の仕事をしていたが、出征していくため、女子が増えていった。女子挺身隊が一五〇〇一六〇人程いて、理事生・筆生として仕事をしていた。女子挺身隊は偉い人の娘さんが多かった。

日吉には人事局と軍令部の一部が来ていることは知って

いたが、連合艦隊司令部が来ていることは知らなかった。

昼食はドングリ粉の入った黒いコッペパンにバターをつけて食べた。交代で取りにいき、部屋で食べた。経理局は役所なので食事は良くなかった。女性は弁当持ちで東京や横浜から通っており、近くの人はいなかった。当時東横線は淋しかった。武蔵小杉は工業都市と呼ばれていた。蝸谷のテニスコートでよくテニスをした。

(生協ニュース教職員版第五〇号より抜粋転載)



19年10月21日、ブルネイ泊地における長門——「あ号作戦」の敗退後に行なわれた対空兵器の画期的強化により、25ミリ機銃はいちばやく98挺に増強された。さらに電探設備も充実し、新機軸をトップに二一〇一基と二二〇二基、後機には一三〇二基のアンテナが見られる。艦隊決戦に臨まんとする緊迫感が画面から伝わってくるようだ。

写真太平洋戦争

(第7巻)  
光人社

光人社NF文庫

マリアナ沖海戦  
比島沖海戦

## 松井市△△加振生口第三回

七月二日一九時

フードギャラリー

## 報告

一、六月三〇日「横浜川崎平

和のための戦争展」第四回実

行委員会開催

## 議事

▼「横浜川崎平和のための戦

争展」実行委員会として近代

遺跡の保存について全国的な

シンポジウム開催を呼びかけ

てはどうか

＊方向として、前向きに

▼日吉台地下壕のビデオを夏

休みに茂呂、谷藤が中心にな

り製作する

松井市△△加振生口第四回

九月二日一七時半

フードギャラリー

## 報告

一、七月一四日「96平和のた

めの戦争展かながわ」第四回

実行委員会開催

二、同一六日「同」第五回同

三、同一二日会報三九号発送

四、同一五〇二八日「96平和

のための戦争展かながわ」開

催

五、八月三日横浜市中学校社

会科研究会「臨地研修講座」

による見学会二五名参加

六、同八日横浜市・横浜市教

育委員会へ平和のための戦争

展後援依頼を申請

七、同一〇日藤沢市「平和の

輪を広げる一〇〇日事業」に

よる見学会一九名参加

八、同一二一三三地下壕ビ

デオ撮り打合せと撮影

九、同一七日東洋経済日報

(韓国系新聞社)の取材

一〇、同一八日元蟹ヶ谷通信

隊の武澤・山室氏より聞き取

り調査

一一、同二三日田奈弾薬庫跡

の地下壕見学と聞き取り調査

に寺田事務局長参加

一二、同二四日、武蔵野文化

協会による見学会一五名参加

一三、同二六日「96平和のた

めの戦争展かながわ(見学者

2000名)「反省会

一四、同三二日「横浜川崎平

和のための戦争展96」プレイ

ベントの見学会約三〇名参加

一五、九月二日第四回幹事会

開催

留連堂白木女員△△加振生口

第一回

一〇月一六日一九時

コーヒー領事館

## 報告

一、九月七日「ごまめの会」

主催講演会「日吉台地下壕」

二〇余名参加

二、同八日「横浜川崎平和の

ための戦争展96」写真真パネ

ルの選別

三、同一四日「96平和のため

の戦争展かながわ」の来年度

の打合せに参加

四、同日「横浜川崎平和のた

めの戦争展96」実行委員会開催

五、同一七日月刊アリアン

(ソウル)記者地下壕取材

六、同一二一三三「第四回

横浜川崎平和のための戦争展

96」開催。二二日七五名、

二三日(台風の日)三五名、

二三日二五〇名余参加

七、同二八日相模原市職員労

働組合による見学会四〇余名

参加

八、一〇月二日日本平和学会

「戦争と平和の歴史」コミッ

ションの方による見学会四名

参加

九、同三日「横浜川崎平和の

ための戦争展96」反省会

一〇、同四日水道局職員労組

による見学会三五名余参加

一一、同五日インターカレッ

ジコップの学生による見学会

一五名参加

一二、同一三日韓国ソウル・

横浜川崎平和のための戦争展  
1996.9.21～9.23会計報告

$$285,722 - 255,794 = 29,928 \text{ 殘金}$$

収入の部	
前年繰越	50,862
賛同金（振込・個人）	142,840
同（現金・同）	41,000
同（同・団体）	24,000
プレイベント参加費	20,520
資料	6,300
カンパ	200
合計	285,722
支出の部	
会場費	39,170
運営費	46,994
事務通信費	20,360
印刷費	30,230
材料費	25,740
謝礼	80,000
交通費	13,300
合計	255,794

ケープルテレビ地下壕取材  
十三、同一六日第一回運営委  
員会開催  
議事  
▼日吉台地下壕の保存につい  
ては、これまで横浜市、神奈  
川県に要請してきたが、文化  
庁にも働きかけてはどうだろ  
うか  
\*もう少し研究してみる  
松井車手△云却散生口第五回

二月六日一九時  
コーヒー領事館  
報告  
一、一〇月一九、二〇日慶応  
高校の日吉祭で生徒有志によ  
る日吉台地下壕と愛親覚羅造  
（あいしんかくら ひろ）を  
中心とした展示を行なう  
二、同二三日地元の関係者と  
東郷副会長・寺田事務局長・  
亀岡・喜田両幹事が会合をも

つた

三、同二六日「平和のための戦争展かながわ」第二回打合せに参加

四、同二七日東京女学館教職員組合による見学会一〇名参加

五、一月二日「ごまめの会」による見学会一八名参加

六、同六日第五回幹事会開催  
議事

▼神奈川県知事に署名をそえて提出した陳情書の回答が届いていないことについて、電話で問い合わせたところ、教育委員会からの回答でよいからという返事があった

＊その辺の事情や県の文化財行政について神奈川県文化財課に行つて教わることになつ

運當委女員△云報生日  
第二回  
二月二日一九時

コーヒー領事館

報生口

一、一月七日横浜市高等学  
校教職員組合による見学会二  
六名参加

二、同一二日神奈川県文化財課に東郷、寺田、亀岡、中沢が訪ね、話し合いをもった

三、同二一日第二回運當委員  
會開催

議事

▼県の文化財課との話し合いについて報告しながら今後の方針を話し合った

\* 一県としては、今後横浜市と話し合いをもち、文化庁とも話し合つていきたい。日吉台地下壕だけ特別扱いにはできないが、県内の近代遺跡等これから調査する必要があるので日吉にも調査にいきたいとかなり前むきの話であつたので、議員の方などに相談して方向を見出していきたい